

大会名	第8回 全日本社会人バスケットボール選手権大会			
Competition	兼 第8回天皇杯・第79回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会予選			
No.	M-14	Year	Month	Day
		2012 年 11 月 4 日		
		9 : 30		
場所	秋田市立体育館			
Place				



秋田県バスケットボール協会

チームA	チームB
日本無線	横河電機
70 ●	77 ○
16 1st 16 15 2nd 18 19 3rd 16 20 4th 27 OT	

主審:Referee
加藤 昌樹 愛知
副審:Umpire
小川 裕之 秋田
細田 知宏 東京
テーブルオフィシヤル:Table officials
秋田教員

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
1	×	福 田 大 祐		11	1	4	0	4	0	×	田 ヶ 谷 治	CAP	39	0	13	13	3
2	×	福 田 侑 介		18	4	2	2	4	3		小 納 真 樹		-	-	-	-	0
3		会 川 剛 史		-	-	-	-	0	4		溝 田 浩 志		-	-	-	-	0
6	×	鈴 木 伸 之	CAP	7	1	2	0	4	7	×	梅 田 稔 人		0	0	0	0	3
7		松 林 弘 祐		-	-	-	-	0	8	/	神 崎 健		0	0	0	0	0
9	×	小 林 純 也		10	0	3	4	3	9		佐 藤 岳		-	-	-	-	0
22	/	鈴 木 裕 也		0	0	0	0	0	13		小 林 一 哉		-	-	-	-	0
24		菅 原 康 平		-	-	-	-	0	14		森 川 純 平		-	-	-	-	0
25		尾 崎 智 則		-	-	-	-	0	20		張 威 威		-	-	-	-	0
31	/	那 谷 一 樹		5	1	0	2	1	21		山 田 純 也		-	-	-	-	0
34		樋 渡 大 樹		-	-	-	-	0	22	×	浦 中 旭		11	1	3	2	3
49	×	山 本 修 二		19	0	9	1	2	24	×	梶 原 剛		16	5	0	1	2
58		鎌 田 晃 輔		-	-	-	-	0	28		能 登 裕 介		-	-	-	-	0
72		上 野 学		-	-	-	-	0	33	×	笹 義 仁		8	0	4	0	5
				-	-	-	-	0	77	/	飯 島 章 仁		3	1	0	0	1
				-	-	-	-	0					-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0					-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0					-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0					-	-	-	-	0
コチ		箱 崎 雅 俊							コチ		小 納 真 良						
アコチ		尾 崎 智 則							合 計		合 計		77	7	20	16	17
		合 計		70	7	20	9	18									

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1 P : 日本無線、横河電機共にマンツーマンディフェンスでスタート。
日本無線は開始早々から#49山本の高さを生かしオフェンスリバウンドなどで得点を重ねるものの、対する横河電機も#0田ヶ谷を中心に速いインサイド攻撃、ミドルショットなどを確実に決め、お互いに取られては取り返すという一進一退の攻防で1Pを16-16で終える。

2 P : 堅い守りの両チームは、一瞬の隙を突いては得点に結びつけるという拮抗した試合運びとなった。日本無線は#49山本がゴール下で着実に決め、横河電機は#0田ヶ谷の素早いカットインなどで取り返すといった1P同様、一進一退の攻防が続き、31-34とわずかに横河電機リードで前半を折り返した。

3 P : 日本無線ボールでゲームがスタート、依然両チーム守備隊形は変わらずも、日本無線は#49山本のインサイドへのパワープレイで得点を重ね、残り4分で40-41と追い上げるも、横河電機も負けじと#33笹の高さを生かしたインサイドプレイによって得たファウルフリースローを確実に決めるなど拮抗した試合運びは変わらずも残り10秒の所で日本無線#31那谷の3PTSで同点に追いつき、50-50で3Pを終了する。

4 P : 開始早々から横河電機が、#33笹、#0田ヶ谷を生かし連続得点を上げ残り3分30秒の所で横河電機#77飯島の3PTSで58-67と最大得点差9点にひらいた所で日本無線がたまたま2回目のタイムアウト、攻撃の立て直しを図るものに対する横河電機#0田ヶ谷の連続ポイントを許し、残り1分、5点差まで追い上げるも、最後は70-77で横河電機が追いつく日本無線を振り切って勝利を取った。

文責 【 柏木 淳平 】